

ふなから

第34号

2022年9月30日発行
編集・発行 上村直樹
〒278-8510
千葉県野田市山崎2641
東京理科大学薬学部内
印刷・菅原印刷(株)



葛飾キャンパス建築風景航空写真2022年7月

CONTENTS

1. 同窓会会長挨拶 (上村 直樹)	2	13. 書籍出版「燃焼」(岡部 捷二)	15
2. 理窓会会長挨拶 (増淵 忠行)	3	14. 薬学部葛飾キャンパス移転の現況	16
3. 理事長挨拶 (浜本 隆之)	4	15. トピック	
4. 学長挨拶 (石川 正俊)	5	研究室紹介 医薬品等品質・GMP講座 (櫻井 信豪)	18
5. 学部長挨拶 (宮崎 智)	6	恩師からのたより (遠藤 次郎)	20
6. 令和5 (2023) 年度同窓会総会案内	7	16. 生涯学習プログラム 2022年度後期講座のご案内	22
7. 令和4 (2022) 年度同窓会総会のご報告	8	17. 会費納入のお願い	23
8. 令和4年度同窓会講演会のご報告	10	18. 定例会に参加しませんか!	23
9. 同窓会だより		19. 登録情報の変更方法	24
令和4年度同窓会懇親会および第25期同期会報告	11	20. 会費・寄付金納入者一覧	24
ゴルフ大会への参加報告	11	21. 終身会員一覧	24
10. 退任の挨拶 (鍛冶 利幸)	12	22. 訃報	27
11. 新任の挨拶 (藤江 智也)	12	23. 編集後記	28
12. 卒業生報告 近況報告		24. 同窓会幹事一覧	28
(藤森 廣幸)	13		
(上林 敦)	14		

同窓会会長挨拶

東京理科大学 薬学部同窓会 会長 上村 直樹 (23期)



会長を拝命し2期2年目に入りました。一言ご挨拶申し上げます。

この同窓会誌「ふなかわら」のタイトルは、当時の薬学部が新宿区市谷船河原町にあったことに由来します。野田キャンパスの卒業生にはご存じない方も多と思います。薬学校舎は神楽坂キャンパス5号館ですが、「ふなかわら校舎」と言う人が多かったのを記憶しています。1987年薬学部同窓生の同志により当会が発足しました。理窓会は全学部の校友会で、100年以上の歴史がありますが、当会は2027年に40周年を迎えます。薬学部校舎が少し離れたところにあったためか、クラブ活動をしていない学生には他学部の学生との交流も少なく、卒業後に理窓会の会員と言われてもピンとこなかった方が多かったと思います。現在でも野田キャンパスの理工学部とは離れているため、同じかもしれません。しかし、私たちは全員が理窓会会員であり薬学部同窓会会員です。まずこの意識をはっきり持っていただければ幸いです。

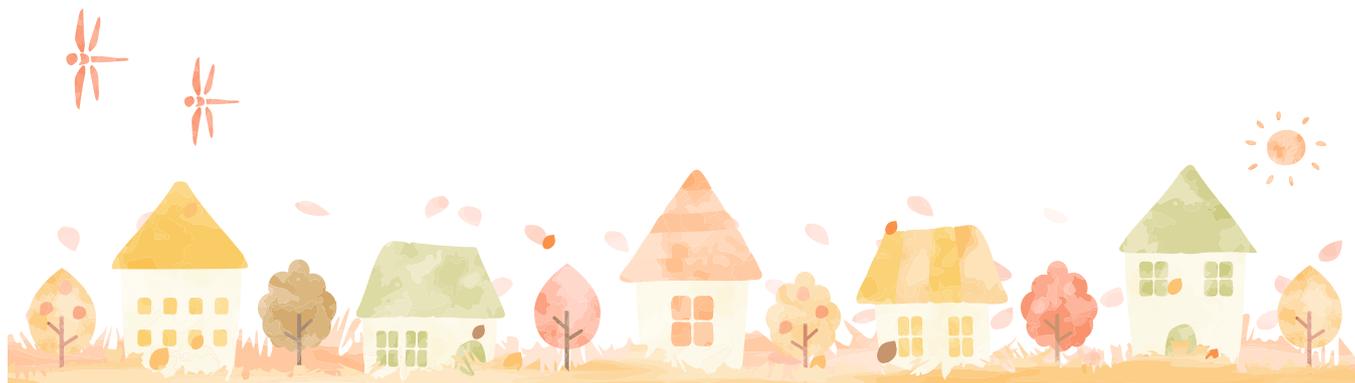
薬学部同窓会は理窓会の関連団体ですが、今年度から私は理窓会副会長を拝命して、校友会としての活動に積極的に参加しています。その理窓会もずいぶん変わりました。理窓会には会長、副会長、常務委員の役員25名のうち薬学部卒が4名になりました。また、当会の副会長5名全員が今年度から理窓会代議員にもなりました。これは増淵理窓会会長のご理解の賜であり、感謝申し上げます。理窓会には各都道府県に支部がありますが、薬学同窓が少ないと感じています。是非ご自身のお住まいの支部の門を叩いて頂ければと思います。また、東京に集まるのは難しいが、地元地域で薬学部同窓生の懇親会、ゴルフコンペ等がある場合は、ご連絡いただければ幸いです。当会としては、東京での定例会以外にも地域での活動を増やしたいと考えています。定期的で開催されているのであれば、当会の部会として承認して、ホームペー

ジや「ふなかわら」で広報したいと考えています。

新型コロナウイルス感染症の影響で昨年までの総会が書面表決となりましたが、初めて女性の副会長を承認していただき、一步一步前に進むことができました。特に薬学部は女性が半数を占めている学部ですから、当然のことかもしれません。今後もダイバーシティに力を入れてまいります。総会や定例会で集まることができず、同窓会の目的である会員相互の親睦を図ることができていませんが、定例会はオンラインで開催したことで、いまままで参加が難しかった遠方の会員も気軽に参加できるようになり、メリットもありました。今年度の総会は、オンライン併用で行うことで、地方の方にもご参加いただけました。

薬学部との連携として、以前から行っている「実践社会薬学」だけでなく、「就職懇話会」も開催しています。これは主に生命創薬学科（4年制）の在校生を対象に、製薬企業、化粧品企業、IT企業、行政などのOB・OGからアドバイスや相談に応じる授業です。初めにそれぞれの業種からの簡単な講義があり、その後は業種別に分かれた部屋で相談できるというものです。将来の自分に直接関わることなので、学生も真剣そのものですし、多くの質問が飛び交いました。来年からも継続しますので、企業に勤務されているOB・OGで、在学生に「これは伝えたい」という気持ちがある方は是非ご協力をお願いします。毎年7月上旬の土曜日に開催しています。

最後に東京理科大学は2031年に150周年を迎えます。学校法人はTUS VISION 150を作成し、「世界のいたる所で社会に貢献する理窓会メンバーである校友の強固なネットワークの中核」をビジョンの1つとしています。つまり同窓生との連携がますます重要となっていきます。皆様のお力で薬学部同窓会をますます活気のある会へと盛り立てていただければ幸いです。



理窓会会長挨拶

理窓会会長 増渕 忠行
(1968理学部1部物理学科卒)



薬学部同窓会上村直樹会長様から依頼を受け、薬学部同窓会報「ふなかわら」に第31号から執筆させていただきました。上村さんは薬学部同窓会会長2期目2年目のようですが、私もこの4月から理窓会会長2期目に入りました。続投というより、増渕Aから増渕Bにバトンを受けた気持ちで、心新たに新年度を迎えました。

理窓会本部の新体制

東京理科大学の校友会である理窓会ですが、新体制では多くの薬学部出身の皆さんに、力強くサポートいただいておりますので、その一端をご紹介します。

上村直樹さんには総務担当副会長として、総務全般のほかダイバシティ委員会、理窓会倶楽部運営委員会、会則変更検討委員会など幅広く担当していただいております。昌子久仁子、野村香織、高尾圭一さんには常務委員として幅広い経験を生かし、新鮮な目線で積極的に活動していただいております。

代議員総会

最高議決機関は代議員総会ですが、その委員として、押尾茂・福島支部長、藤森廣幸・京都支部長、坂元一貴・宮崎支部長に加え、支部長推薦枠で千葉支部・河島修一郎、東京支部・池北雅彦、山口支部・梶井浩志、佐賀支部・高橋秋彦、大分支部・松崎忠史さんが選出されています。更に武田直子、田畑新、磯部総一郎、伊集院一成、真野泰成さんといった薬学部同窓会の副会長さんたちがそれぞれ専門分野のご経験を生かした活動をしていただいております。昌子久仁子、小茂田昌代、上村直樹さんも代議員です。6月26日に開催した代議員総会では武田直子さんから、貴重な提言をいただきました。来年度に向けて改善検討しています。

ホームカミングデー 2022

毎年10月の最終日曜日に、大学と共催でホームカミングデーを開催しています。今年は10月30日(日)に、昨年度同様オンライン開催します。その様子をアナウンスする「ガイドブック」を作成しますが、昨年に引き続き「ふなかわら」34号に同封させていただきました。オンライン開催で味気ない、などと言わずに思考をこらしたイベントをご覧ください。「お楽しみ抽選」にも是非チャレンジしてみてください。

会報「理窓」

右は「理窓」の9月号の表紙で、野田キャンパスの「薬用植物園」で飾りました。更に21頁には薬用植物園・羽

田紀康園長の「五感を駆使した生きた教材」と題し執筆していただいた記事を掲載しています。

理窓会本部で把握している住所判明の皆さん全員に9月中旬に配送しました。もし、届いていない方がいらっしゃいましたら下記理窓会事務局までメールしてください。

risoukai@alumni.tus.ac.jp

予備を保管しておりますので郵送いたします。さらに住所登録をお願いいたします。なお、理窓会費納入者には年3回(1月、5月、9月)配信しています。

2022年薬学部同窓会総会に参加して

7月23日、飯田橋のインテリジェントロビー・ルコで開催された総会、講演会、懇親会にお招きいただき参加いたしました。今年は25期の皆さんが当番年次とのことで、受付、司会、総会議長など見事に運営され、気持ちよく参加させていただきました。記念講演の演題は、アンサンングシンデレラの医療原案作成者・富野浩充さんの「アンサンングシンデレラが出来るまで ～門外不出でお願いします～」は、楽しく、大変ためになるお話でした。薬学部卒の皆さんはUnsung hero(縁の下の力持ち)以上に、大活躍でなくてはならない存在です。かかりつけ医ならぬ、「かかりつけ薬剤師」を持つことを、身の回りに仲間に伝えています。今後ともご指導よろしくお願いたします。

理窓会ホームページリニューアル

薬学部のホームページは昨年リニューアルされていますが、その中心でご活躍されたと伺った高尾圭一さんに、理窓会HPの改善にお手伝いいただいております。本年7月末にリニューアル版を公開しました。iPhoneなどスマートフォンでも読みやすく、明るい雰囲気のものに改善しました。

ご覧いただき、忌憚のないご意見をお寄せください。

アジャイル思考で

目まぐるしい変化に柔軟に対応し、失敗を恐れず改善に取り組みますので、ご理解ご協力を切にお願いいたします。



理事長挨拶

東京理科大学理事長 浜本 隆之



東京理科大学薬学部同窓会の皆様におかれましては、日頃から本学の教育・研究に対し温かいご理解を賜り、誠にありがとうございます。

前理事会の後を受け、昨年4月に新たな理事会が発足しました。また、本年1月には石川正俊先生を第11代学長としてお迎えし学長室の体制も刷新されました。理事会・学長室ともに新たな体制となったことを機に、ご挨拶をさせていただくこととなりました。

本学では、先達から受け継がれてきた歴史と伝統を継承するとともに、今後のより一層の発展を確実なものとするべく、「中期計画2026」（2022～2026年度）を策定し、4月に公開しました。これは、2031年に迎える創立150周年のあるべき姿を示した「TUS VISION 150」達成に向けたマイルストーンとなるものです。計画では①教育、②研究、③国際化、④学生支援、⑤社会貢献・連携、⑥法人運営、⑦キャンパス整備、⑧学生確保の8つのカテゴリーに分けて、今後5年間に全学で重点的かつ優先的に取り組むべき21項目を示しました。

教育面では教育DXの推進、研究面では共創イノベーション連携強化などを掲げていますが、優れた教育・研究を行うためには、充実した施設・設備が欠かせません。理想の実現に向けた目玉の一つとして、昨年6月から2025年度の薬学部の移転を見据えた葛飾キャンパスの第2期工事が始まりました。2024年度の竣工を目指して建設中の新棟は、オープンな構成で、キャンパスから隣接する公園への視覚的な繋がりを創り、1階にはカフェやラウンジを設置するなど、学生たちが自分の好みや目的に応じて居場所を選ぶことができる多彩な場を有する特徴としています。この他にも、多様な学生への支援体制の構築など、種々の基盤整備を行います。今後の5年間は、この計画に沿って大学の更なる発展に向けて取り組んで参ります。

今回の中期計画を策定するにあたり、基本戦略として最も重視したことのひとつが、「学生、教職員、同窓生等すべ

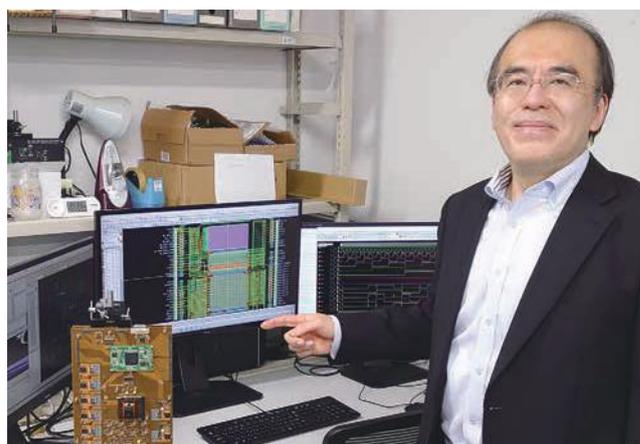
ての大学関係者が、より一層の「愛校心」と「誇り」を抱くことができる大学」を目指すことです。多くの卒業生の活躍により、おかげさまで本学は社会から高い評価を受けておりますが、計画には、「理科大」のブランドをさらに高めるような施策を盛り込んでいます。そんな学生、卒業生の姿に憧れた若者が入学し、本学での教育を受けて巣立っていくという好循環を通じて、すべての大学関係者が「愛校心」と「誇り」を育てていくことが理想です。

「愛校心、誇りを抱ける大学」となるために、同窓会は欠かせない組織です。卒業生と大学を繋ぐ架け橋として、「理科大」のブランドを高める活動と一緒に取り組んでいただけたらと思っております。その中でも、薬学部同窓会は創設から35年を迎える伝統ある同窓会組織です。1987年7月に設立されて以来、薬学部同窓会は長年にわたって薬学部の卒業生の皆様の交流の場となるとともに、「実践社会薬学」の企画や「医療薬学教育研究支援センター」の活動支援等、薬学部で行われるキャリア教育にも長年参画し、後輩の育成にも大いに貢献いただきました。

昨今の新型コロナウイルス感染症の蔓延や高齢化の進展といった課題を抱える社会において、薬学部が基本理念として掲げる「「医薬分子をとおして人類の健康を守る」志をもった優れた人材の育成」に対する期待はますます強まっています。これまでも様々な実績を上げてこられた、薬学部同窓会の活動が今後も活発に行われることで、「東京理科大学薬学部」のブランドが更に高まっていくものと期待しております。

2031年の創立150周年に向けて、同窓の皆様と大学の連携を深め、大学のさらなる発展、ひいては、よりよい未来の実現に貢献できればと考えております。皆様におかれましても、引き続きのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



学長挨拶

東京理科大学学長 石川 正俊



薬学部同窓会会報「ふなかわら」の誌上にて、ご挨拶の機会を頂きまして、ありがとうございます。本年1月に学長に就任致しました石川正俊です。60年を超える薬学部の歴史の中で、薬学部同窓会が活発な活動を続けられていることに対し心から敬意を表します。

薬学部も含め、昨今の大学の立ち位置は、強く社会との連携を意識したものになっています。その背景には、社会における大学の役割の変化があります。大学の役割は、2006年に改正された教育基本法の中で、「学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。」と規定されています。この規定では、従来からの大学の役割であった、「高い教養と専門的能力」を培うことと「深く真理を探究して新たな知見を創造」することに加えて、新たに「これらの成果を広く社会に提供し、社会の発展に寄与」することが大学の役割として求められています。

この改正から16年経った現在、新たな大学の役割は、従来の役割とともに、社会的に認知され、定着し、大きな流れとなって大学の新しい方向性を具現化しつつあります。薬学部同窓会の会員の多くの方々は、すでにこの流れを感じ取って頂いているのではないかと思います。

この大学の新しい役割に対して、東京理科大学は多方面からその基盤づくりをしています。その1つが、今年の4月に教育支援機構や研究推進機構と並ぶ新たな機構として、従来の機能を発展・拡充して立ち上げた「産学連携機構」です。新たな社会価値の創造を指向した研究支援、起業支援、地域連携、知財管理などを一体的に推進できる体制を整えました。特に、民間企業との共同研究やベンチャーを活用した社会実装等は、教育・研究の成果を社会で活用する際の有効かつ重要な手段として強化すべきものと考えています。このことにより、大学だ

けの力ではなく、社会との密接な連携による大きな力として、東京理科大学の教育・研究の成果を社会の発展に繋げたいという思いがあります。

新たな社会価値の創造のためには、大学は知識の集約拠点から新たな価値の創造拠点へと変わる必要があります。社会は独創的な成果を社会的価値として積極的に評価することが必要になります。つまり、大学は新たな価値を生み出しますが、それを評価するのは、大学ではなくて社会です。この関係が有効に働くためには、東京理科大学をよく理解し、社会で活躍されているパートナーである卒業生の皆様の力がなくてはならないものであります。卒業生の皆様には、社会と大学の更なる強い連携の構築に向けて、皆様の力を様々な形で発揮頂けるものと期待致しております。

東京理科大学にとって、卒業生との強い連携のもとに、社会の新しい価値を創り出すことができれば、望外の喜びであると同時に、東京理科大学薬学部の社会的プレゼンスの向上や在校生並びに卒業生の活躍の場を広げることにも繋がるものと確信致しております。薬学部同窓会は、その活動を支える組織として、卒業生同士はもとより、大学と卒業生、在校生と卒業生など、これまで以上に連携の場がさらに広がることを望んでおります。

薬学部は2025年度に葛飾キャンパスへの移転が予定されています。薬学部は、この同窓会誌の名称にもなっている新宿区船河原町で産声を上げ、野田キャンパスで育ち、葛飾キャンパスで新たな発展を期するという第3段階の入り口に着こうとしています。大学の変化とともに、薬学部の今後の発展に卒業生の皆様からの温かいまなざしとご支援を賜れば幸いです。同窓会の皆様とともに、発展する薬学部の姿を築き上げていきたいと考えております。

最後になりますが、東京理科大学薬学部同窓会並びに同窓生の皆様が、ますますご活躍されることを祈念致しております。



学部長挨拶

～災い転じて…～



薬学部長 宮崎 智

2018年10月に第20代薬学部長となりました宮崎です。コロナ禍の状況、葛飾移転準備、薬学評価機構による審査等が重なったこともあるかと思いますが、2022年10月から第3期目としての継続の評価をいただきました。同窓生の皆様には、多大なご支援をいただいているところですが、大学とのより強力な協調関係に発展できますよう、努力させていただく所存です。

既に、広報されておりますように、薬学部は2025年に葛飾キャンパスに移転します。現在は、新棟の構造等でのハード面の議論が先行していますが、葛飾移転を研究内容やカリキュラム等のソフト面にどのように活かすかが重要な課題となります。一方、薬学の全国的状況を見ますと、おおよそ3割の薬系大学で定員割れが生じていて、中でも、東北や中国地方では、定員の50%以下の学生しか確保できない状況が出てきています。また、6年制一辺倒にも変化が見られ、コロナ禍においては、4年制学科の定員増分で薬学としての定員確保ができた大学も出てきました。本学につきましては、入学希望者数が減ることなく安定して定員確保ができていますが、少子化問題と大学の質保障が絡み、本格的な大学再編が始まろうとしていますので、本学の独自性をよりアピールしていくことが必要と思います。葛飾移転までの2年間においては、以下を最重要課題と位置付けて、コロナ禍やコアカリ改訂などの逆風が順風になることを希望しております。

- 1) コロナ禍で充実してきたオンラインを利用したデータサイエンス教育

- 2) 学部内での感染症、精神疾患や細胞治療などのAMED課題の先取り研究
- 3) 神楽坂の医療薬学教育研究支援センターの発展と、野田の薬草園や暴露棟、葛飾での研究教育を軸とした3キャンパスの活用
- 4) 在籍者60～70名となった博士課程の更なる改革
- 5) コアカリ改訂に伴う必修科目のスリム化と研究科目単位の拡大化

コロナ禍で多くの行事が何らかの制限を受けましたが、長期実務実習や国家試験対策では対面講義が復活してきており、ライブあるいはオンデマンドのリモート講義を併用しつつ更なる効率化を目指しています。また、おおよその講義が対面で行われるようになり、各キャンパスは学生の賑わいを取り戻しつつあります。

同窓生の方々を中心とした評価委員（教育関係、企業、行政から選出）の意見による「将来構想」への回答も着実に実現してきました。

依然としてコロナ感染症は予断を許さない状況ではありますが、引き続き、地域や社会との接点を多く持ち、より多くのご意見を戴くことが重要と考えています。同窓生の方々は大学と社会を結ぶ太いパイプです。また、大学の伝統や校風は、法人が企画しても定着するものではなく、主役は在校生・卒業生であると思います。是非、同窓生の方々におかれましては、次世代の理科大もリードください。機会がありましたら、様々な角度からのご助言をお待ちしております。

皆様方のご活躍を心より期待しております。



令和5(2023)年度東京理科大学薬学部同窓会総会 および講演会のご案内

皆様には益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、来年度の同窓会総会および講演会を下記にて開催致します。万障お繰り合わせの上、ご出席賜りたくご案内申し上げます。

令和4(2022)年10月

東京理科大学薬学部同窓会
会長 上村 直樹

■日 時：令和5(2023)年7月22日(土) 14:00～

■場 所：インテリジェントロビー・ルコ(軽子坂MNビル)

東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル1F 電話：03-3266-9311

(同窓会総会、講演会および懇親会のすべてを上記会場で開催致します)

●総会および講演会は、対面とオンラインのハイブリッド形式で行います。

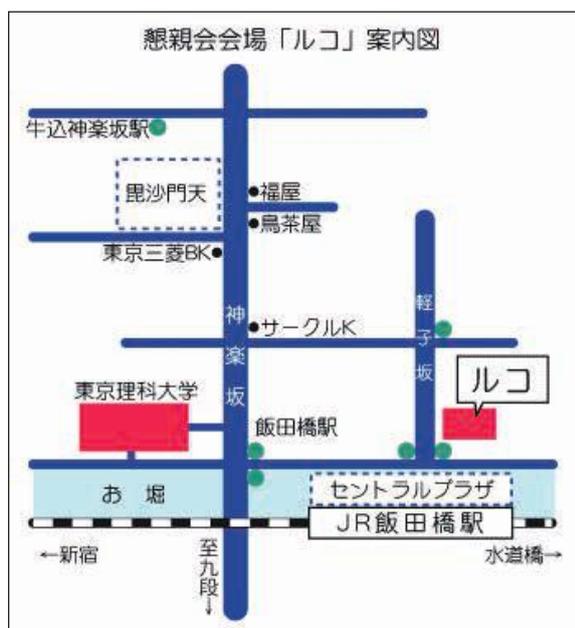
■次 第：14:00～15:00 同窓会総会

15:00～17:00 特別講演会

●講演の内容につきましては、随時ホームページに掲載いたします。また、研修機関認定制度が変わり、研修シールのお渡しが出来なくなりました。ご了承ください。

17:00～18:45 懇親会

■会 費：懇親会 5,000円



【ホームページ】

<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>

【お問合せ】

東京理科大学薬学部同窓会 事務局

278-8510 千葉県野田市山崎2641

東京理科大学薬学部内

E-mail: jimmu@ridaiyakudo.gr.jp

FAX: 04-7121-4531

*お電話での受付はしておりません。また、事務員は常駐しておりませんので、すぐには対応できない場合がございます。

【担当】26期幹事

(薬：片岡幸世(旧姓：木村)、製薬：小林寧^{やすし})

*当日は同期会も開催します。奮ってご参加ください。

お問合せ E-mail: so-mu@nichiyaku.or.jp

令和4（2022）年度同窓会通常総会報告

令和4（2022）年7月23日（土）の午後、インテリジェントロビー・ルコにおいて、令和4（2022）年度通常総会が開催されました。出席者は約43名でした。総会担当は第25期生が務め、司会の石井丈久氏の開会宣言、上村直樹会長の挨拶があり、次いで、小林寧氏（26期）が議長に、日向章太郎氏（15期）、野村香織氏（34期）が議事録署名人に指名され、事務局の小林さと子氏が議事録作成を担当し、議題に従って議事が進行されました。

主な議題は次の通りで、いずれの議題も原案の通り承認されました。

第一号議案 令和3（2021）年度事業報告の件
 第二号議案 令和3（2021）年度決算報告及び監査報告の件
 第三号議案 令和4（2022）年度事業計画案の件
 第四号議案 令和4（2022）年度予算案の件

以上の議案審議終了後、石井氏により閉会宣言がなされました。

25期 担当幹事

第一号議案

令和3（2021）年度事業報告

- 同窓会通常総会の開催
 令和3（2021）年7月1日～19日
 → 新型コロナウイルス対応により、書面表決
- 同窓会会報「ふなかわら」第33号の発行
 令和3（2021）年10月4日
- 地区交流会の開催 令和3（2021）年9月19日
 第53回日本薬剤師会学術大会（福岡）に合わせて、交流会開催
 → 新型コロナウイルス対応により、開催中止
- 新会員勧誘 資料を300名に送付
 令和4（2022）年1月31日
 会費納入は、令和4（2022）年3月卒業生（59期）21名、大学院修了者 3名
- 卒業生・修了生全員に卒業・修了記念品（記念スパーテル）を贈呈 令和3（2021）年9月、
 令和4（2022）年3月19日
- 卒業記念謝恩会へ祝金10万円を贈呈
 → 新型コロナウイルスの影響により、謝恩会開催中止のため、祝い金10万円の贈呈はなし
- ホームページのメンテナンス
- WEB名簿システムのメンテナンス
- 定例会の開催 → 新型コロナウイルス対応により、オンラインで開催
 令和3（2021）年4月10日、9月11日、
 令和4（2022）年2月26日
- 正副会長会の開催
 令和3（2021）年4月4日、5月30日
- 大学関連
 - 薬学部60周年行事への協力
 - 医療薬学教育研究支援センターへの協力
 - 就職懇話会（キャリア学習2）への協力
 （令和3（2021）年7月10日）
 - 実践社会薬学への協力
- 理窓会関連
 - 理窓会ホームカミングデーへの協力
 （令和3（2021）年10月31日）
 → 新型コロナウイルスの影響により、オンラインで開催
 - 理窓会関連団体交流会（第9回）への参加
 （令和4（2022）年3月12日）
 → 新型コロナウイルスの影響により、オンラインで開催

第二号議案

収入の部		支出の部		
内訳	金額	内訳	金額	摘要
同窓会費	1,998,000	人件費	507,325	アルバイト代
預金利息(合計)	146	通信費	13,268	さくらインターネット
寄付金	15,000	諸案内状印刷発送費	1,574,058	ふなかわら印刷発送(菅原印刷)
総会懇親会参加費	0	郵便代・宅配代	25,587	
理窓会より総会祝い金	0	文具・事務経費	2,222	振込料(1760円)など
地区交流会懇親会参加費	0	プリンター経費	79,800	実務薬学研究室
資産より繰り入れ	894,833	講演会謝金	0	講師謝礼
		総会経費	0	会場費・機器使用料・研修シール代
		総会懇親会費	0	
		同窓会パンフレット作成、送付	126,383	
		卒業謝恩会祝金	0	新型コロナウイルスの影響で中止のため
		卒業記念品代	207,900	記念スパーテル315本
		交際費	30,456	事務課他 お中元・お歳暮等
		同期会協賛金	0	
		地区交流会懇親会費	0	
		ホームページ維持費	132,000	エスト社
		WEB名簿システム維持費・新規登録料	33,000	アジュール社
		理窓会関連団体交流会懇親会費	0	新型コロナウイルスの影響でWEB開催のため
		理窓会ホームカミングデー	55,000	WEB開催のための動画作成費用
		雑誌広告	6,000	理窓会会報2022年1月号
		就職懇話会謝金	0	
		薬学部60周年寄付金	30,000	
		学会等協賛金	0	
		雑費	85,000	返金3件(重複会費等)
合計	2,907,979	合計	2,907,979	
郵便局振替口座	1,476,199			
定期預金(三菱UFJ銀行)	4,531,533			
普通預金(三菱UFJ銀行)	2,677,386			
普通預金(みずほ銀行)	1,461,227			
ゆうちょ銀行	2,639,372			
現金	293,341			
	13,279,056			

第二号議案（参考資料）

令和3年度収支予算案
東京理科大学薬学部同窓会
令和3年4月1日～令和4年3月31日

収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	3,000,000	人件費(アルバイト代)	700,000
総会懇親会参加費	0	通信費(さくらインターネット、ウィルスバスター)	30,000
地区交流会懇親会参加費	0	印刷発送費(ふなかわら)	1,700,000
		郵便代(宅配代も含む)	100,000
寄付金など	50,000	文具・事務経費	50,000
預金利息	2,000	プリンター経費	79,800
資産より繰り入れ	664,800	総会講演会謝金	0
		総会経費	0
		総会懇親会費	0
		同窓会パンフレット作成、送付	130,000
		卒業謝恩会祝金	100,000
		卒業記念品代(記念スパ―テル)	200,000
		交際費(事務課他 お中元・お歳暮)	35,000
		同期会協賛金(5期分)	150,000
		地区交流会懇親会費	0
		ホームページ維持費	132,000
		WEB名簿システム関連費	100,000
		理窓会関連団体交流会懇親会費	10,000
		理窓会ホームカミングデー	30,000
		雑誌広告	10,000
		就職懇話会謝金	10,000
		学会等協賛金	100,000
		予備費	50,000
合計	3,716,800	合計	3,716,800

第三号議案

令和4（2022）年度事業計画案

- 同窓会通常総会の開催 令和4（2022）年7月23日
- 同窓会会報「ふなかわら」第34号の発行
令和4（2022）年10月
- 地区交流会の開催 令和4（2022）年10月9日
第55回日本薬剤師会学術大会（仙台）に合わせて、交流会開催
- 新会員勧誘 資料を送付
令和5（2023）年1月～2月
- 卒業生・修了生全員に卒業・修了記念品（記念スパ―テル）を贈呈
令和4（2022）年9月、令和5（2023）年3月
- 卒業記念謝恩会へ祝金10万円を贈呈
令和5（2023）年3月
- 同期会開催に際し、祝金3万円を贈呈
- ホームページのメンテナンス
- WEB名簿システムのメンテナンス

- 定例会の開催（ハイブリッド開催）
令和4（2022）年5月7日、7月23日、
令和4（2022）年10月、令和5（2023）年1月
を予定
- 正副会長会の開催（ハイブリッド開催）
令和4（2022）年5月29日
- 大学関連
 - 医療薬学教育研究支援センターへの協力
 - 就職懇話会（キャリア学習C）への協力
（令和4（2022）年7月9日）
 - 実践社会薬学への協力
 - その他
- 理窓会関連
 - 理窓会ホームカミングデーへの協力
（令和4（2022）年10月30日）
 - 理窓会関連団体交流会（第10回）への参加
（令和5（2023）年3月）
 - その他

第四号議案

令和4年度収支予算案
東京理科大学薬学部同窓会
令和4年4月1日～令和5年3月31日

収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	3,000,000	人件費(アルバイト代)	700,000
		通信費(さくらインターネット、ウィルスバスター)	30,000
寄付金など	50,000	印刷発送費(ふなかわら)	1,700,000
預金利息	500	郵便代(宅配代も含む)	100,000
総会懇親会参加費	200,000	文具・事務経費	50,000
地区交流会懇親会参加費	100,000	プリンター経費	79,800
資産より繰り入れ	851,300	総会講演会謝金	50,000
		総会経費	100,000
		総会懇親会費	200,000
		同窓会パンフレット作成、送付	200,000
		卒業謝恩会祝金	100,000
		卒業記念品代(記念スパ―テル)	210,000
		交際費(事務課他 お中元・お歳暮)	35,000
		同期会協賛金(5期分)	150,000
		地区交流会懇親会費	100,000
		ホームページ維持費	132,000
		WEB名簿システム関連費	100,000
		理窓会関連団体交流会懇親会費	15,000
		理窓会ホームカミングデー	30,000
		雑誌広告	10,000
		就職懇話会謝金	10,000
		学会等協賛金	50,000
		予備費	50,000
合計	4,201,800	合計	4,201,800

令和4年度同窓会講演会報告

令和4年7月23日（土）に開催された同窓会総会後に、富野浩充先生（37期）から

「アンサンングシンデレラが出来るまで ～門外不出でお願いします～」

という演題による特別講演が行われました。

富野先生は焼津市立総合病院にお勤めですが、以前より日経DIオンラインでの連載をはじめ執筆活動でご活躍されており、医療原案担当されていた「アンサンングシンデレラ 病院薬剤師 葵みどり」のドラマ化のタイミングもあり、2年前にご講演をお願いしておりました。

コロナ禍による度重なる同窓会中止、講演会の延期に関わらず、今回、講演会をお引き受けしていただきました富野先生には感謝申し上げる次第です。

講演では、懐かしい5号館の写真や、学生時代のエピソード、理科大あるある的な『くすり』と笑える内容に、会場も講演会と思えないぐらいの笑い声に包まれておりました。

また、昨今とりあげられている薬剤師の存在感（の薄さ）について、いち早く危機感を持ち、薬剤師の仕事が一般に見えてこない ⇒ 薬剤師は発信力がないのでは ⇒ 一般への発信・周知ができればとの思いから執筆活動等に取り組んできたこと、特に理系高校生を意識した活動についてのお話では、彼らの進

路に大きく影響を与えたのではないかと、会場では大きくうなずく会員が多く見受けられました。

さらに、クローズの同窓会ならではの門外不出のドラマ撮影の裏話、「薬剤師」というより執筆家としての文章の書き方講座、その上での問診票や薬剤情報提供書の表現についてなど、幅広い内容に、講演終了後の質疑応答も時間オーバーするぐらい盛り上がりしました。

（書いてはいけないこともありますので、そこは割愛させていただきます）

講演の最初に機材トラブルがあったにもかかわらず、会終了後の出版物即席販売会（サイン会でもありました）でも盛り上げていただき、さらに懇親会にもご参加いただきました富野先生には改めまして御礼申し上げます。

また、コロナ禍にもかかわらず、熱心に聴講いただき、活発なご意見・ご質問をいただきましたリアル・Zoom両参加者のみなさまに感謝申し上げます。

最後になりますが、25期が担当幹事でしたが、26期にもお手伝い頂いたことも付け加えていただき、その26期が担当幹事となる来年こそは、コロナを心配しないような同窓会が開催されることを幹事一同、祈念しております。

（25期担当幹事+26期有志ご協力者一同）



令和4年度同窓会懇親会および第25期同期会報告

令和4年7月23日（土）に開催された薬学部同窓会総会後に同会場の飯田橋ルコにて懇親会が行われました。

総会・講演会からの流れで17:00（少し前）より開催され、COVID-19の新規感染者が多いなか、多くのキャンセルが出るかと思いきや、30-40名の参加となり盛況と言って良い盛り上がりを見せました。感染防止対策としても、飲酒以外の場面ではマスク着用で会話することが徹底されましたが、とても楽しい時間を過ごせました。

第25期も、同窓会懇親会には今回の幹事4名のみを覚悟していましたが、10名の参加となりました。卒業以来ですと33年ぶりに会えた同期も居たこととなります。古い話に盛り上がり、また記憶をたどりに「〇〇さん知っている?」「そうそう、理学部の…」とか。“同窓会あるある”の会話もできたり、聞こえてき

たり。全体の懇親会終了後は、同期会で打ち上げも楽しくできました。（2次会最後の記憶が無い人が数名ほど…）また、早々に皆さんと飲み・話ができる機会が訪れることを祈念しています。このような機会をありがとうございました。



ゴルフ大会への参加報告

この度、薬学部同窓生4名のグループでゴルフ大会に参加しましたので、報告いたします。私は長野県松本市で製薬企業に勤務しておりますが、近隣にお住まいの金井眞先輩（13期）、同じ職場の伊佐治正幸先輩（15期）、大橋正誠後輩（49期）と一緒に、5月7日に行われた地元テレビ局（信越放送）主催の大学同窓会親睦ゴルフ大会に出場しました。本大会は恒例行事となっておりますが、今年は16大学33グループ参加の下、安曇野市の豊科カントリー倶楽部で開催されました。変化に富んだ山岳コースに苦戦する場面もありましたが、熟練の技術や若さ溢れる積極性で乗り切り、幸運にもグループとして3位入賞の好成績をおさめることができました。参加にあたり、薬学部同窓会よりお借りした理窓会の旗は、表彰式会場となった食堂に終日掲揚され、母校の応援を感じながらのラウンドとなりました。上村会長始め同窓会事務局の皆様のご厚意に改めて感謝いたします。ゴルフは生涯スポーツと言われます

が、この度は世代を超えて同窓の親睦を深めながら、思い出に残る楽しい一日を過ごすことができました。ゴルフを通じて得た先輩・後輩とのご縁に感謝すると共に、今後も親睦の輪を広げて参ります。

文責 伏見信彦（32期）



（左から、大橋後輩、伊佐治先輩、金井先輩、伏見）

退任の挨拶



環境健康学研究室 鍛冶 利幸

2010年4月に小野寺祐夫教授の後任として着任し、このたび無事に退職いたしました。着任初年度の終わりには東日本大震災があり、コロナ禍の中で退職の日を迎えることになりました。そうした中で、東京理科大学薬学部において衛生薬学（環境と健康）領域の教育研究に関わられたことは大きな幸運であり、そのことを忘れずに最初から最後まで全力で取り組むことができたと自負しています。良き学生、良き同僚、良き環境に恵まれました。皆様に心より感謝申し上げます。

私は金属の毒性学が専門ですが、そこから有機-無機ハイブリッド分子（有機金属化合物と錯体分子）のバイオリジー（バイオオルガノメタリクス）を着想しました。

このプロジェクトを中心に5人の博士を大学教員として送り出すことができました。これには薬学部の先生方の多様な研究、総合研究院による領域横断的研究の支援、そして優秀な理科大薬学部の学生の勇敢な挑戦が不可欠でした。

薬学をめぐる環境は激変しており、科学者としての薬剤師や薬学に立脚した研究を実践する創薬研究者、さらには薬事衛生行政を担う薬学出身者の養成が急務です。その意味で東京理科大学薬学部に対する期待はきわめて大きいものがあります。東京理科大学薬学部と同窓会の益々のご発展を祈念しています。

新任の挨拶



衛生化学研究室 藤江 智也

令和4年4月、衛生化学研究室内の講師として着任いたしました、藤江智也と申します。私は東京都葛飾区出身であり、理科大の卒業生でもあります。薬学部薬学科（6年制）を卒業後、大学院薬学研究科（4年制）に進学して博士課程を修了しました。新制度の薬学部では第2期生にあたり、大学院では完成初年度の学位取得者になります。その後、東邦大学薬学部衛生化学教室に着任し、大学教員として教育と研究のいろはを学び、この度、母校に戻り恩師である鍛冶利幸教授の後任として研究室を主宰することになりました。至極光栄に存じます。

鍛冶教授の環境健康学研究室に配属して依頼、環境汚染重金属の血管毒性学研究に取り組んでおります。日本

では、代表的な重金属の環境汚染問題としてイタイイタイ病や水俣病が挙げられますが、現在でもこれら重金属は環境中に存在しています。これら環境汚染重金属の健康影響の評価と予防は公衆衛生学における重要課題です。私は、これら重金属による血管病変の発症・進展機構の解析に取り組んでおります。今後は、このような伝統的な重金属の毒性学研究を継続しつつも、理科大だからこそ可能な挑戦的な研究も展開していく所存です。

微力ではございますが、理科大の伝統を継承し、薬学研究の発展ならびに後進（後輩）の育成に邁進する所存です。同窓会の皆様におかれましては、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。



近況報告



元摂南大学薬学部 藤森 廣幸（9期）

退職して数年が経つ同窓生の近況報告には、普通興味が湧かないでしょう。しかし上村同窓会長の執筆依頼が「爽やか」だったので筆を執ることにした。拙稿ご笑覧下さい。

私は東京理科大学薬学部製薬学科（東理大薬）の9期生。旧生理化学教室 森脇千秋教授に師事し、卒業研究、同大学院修了後、日本学術振興会の奨学生として研究を続け、旧静岡薬科大学にて薬学博士号を取得。教室には約11年間在籍。恩師 森脇先生から「お前は世に出ると必ずケンカをするから、大学に置いておく」及び「理窓会には手を出すな」忘れられない言葉で遺言となった。

恩師の逝去後、カナダ・アルバータ大学に2年半留学。帰国後、関西の摂南大学薬学部（摂大薬）にて約31年間研究・教育に携わり2016年3月に退職した。恩師の言葉「・・・大学に置いておく・・・」を思い出し安堵した。現在、京都在住。プチ糖質制限実施、週1のボルダリングを楽しみ、元気に過ごしています。

摂大薬在職中、薬学教育6年制の問題が浮上した。各大学は薬剤師養成の6年制の導入。研究者養成の4+2制度の導入。選択に悩んだ。東理大薬は大学で研究・教育に携わる教員及び博士号取得者を輩出し、輝かしい実績を残している。東理大薬では4+2制度導入是非を巡り激論されたと思われる。しかし、実情を知る内部の教員と古きよき時代を美化しがちな外部の教員（小生）とは理科大薬を眺める景色が異なる可能性があった。この違和感が恩師から「理窓会には手を出すな」の禁を破る一因となった。ちなみに理窓会とは、東京理科大学全学の同窓会組織である。

①理窓会京都支部活動への参加

2005年7月の京都支部総会にてご来賓の塚本恒世元理事長の挨拶を拝聴した。塚本先生は“・・・2006年度から薬学部は6年制となる・・・”と述べられた。小生は、“・・・摂大薬は6年制一本でスタートします。風の噂では東理大薬も6年制一本と聞き及んでおりますが、私学の「雄」理科大薬には4+2制度も一部残して頂けることを一卒業生として期待しております。・・・”と語った。懇談中、理事長曰く「まあ、みていろ」とニヤッとされたのが印象的であった。2006年、東理大薬は6年制の薬学科100名、4+2の創薬科学科100名で開始。度肝を抜く画期的な決断でビックリした。

2016年小生は退職直後に京都支部の副支部長に推薦された。これが「理窓会に手を出す」端緒となった。同年7月京都支部総会にてご来賓の本山和夫前理事長から、“・・・理科大学の学生の就職率はお陰様で90%以上であった・・・”旨の報告を受けた。小生は、“・・・就職率が良くても薬学部の学生は修士課程、並びに博士課程に進学しても大学に残れる可能性が低いため、外部のアカデミアに流失していると風の噂で聞いております・・・。この発言には理事長は不機嫌になった。しかし後日、理事長は薬学部出身の教員が少ないこと、公募制で教員選考を

行っていること、奨学金受給者数を増やす計画等について小生と意見交換した。実は本山前理事長と小生は1972年卒で“同期の桜”。学部が違えども同期生は何故か直ぐに打ち解けて会話が出来る、不思議だ。

2018年春、京都支部の歴史を殆ど知らない小生が支部長を拝命。7月に京都支部総会「文月の集い」、正月に「新年茶話会」を企画・実施。しかしコロナ禍の為全行事が中止。2023年正月「新年茶話会」を出来れば開催したい。京都在住者は支部HPをご覧ください。

②関西理窓会連合会への参加

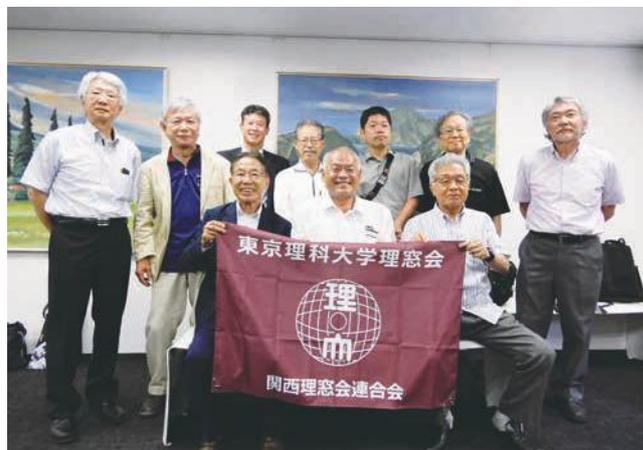
この連合会は京都支部を含む関西2府4県6支部で構成され、全国唯一の支部連合体。退職後、複数支部総会に招待され“適度な糖質制限”は生活習慣病の改善・克服を介して健康寿命の延伸並びにQOL（生活の質）の向上などに繋がる可能性について講演した。小生は“プチ糖質制限”を数年間実践中で、無呼吸症候群などを“薬を飲まずに”改善した。

連合会の主行事は2年に1回開かれる合同交流会、春・秋の合同ハイキング、鳥人間コンテストの応援などである。小生は第20回目の合同交流会開催を記念して連合会の歴史を編纂することを提案した。重鎮方は寝食を忘れて連合会の40年間の全活動記録を収集した。小生は編集に携わり、タイトル「関西合同交流活動の軌跡」A4、52ページの冊子体を2018年5月に発行。母校愛が強い連合会の諸先輩の熱意を編集でき達成感を得られた。

今後コロナ禍を乗り越えて合同ハイキングを皮切りに様々な行事が予定されます。宜しくお願いします。

③コロナ禍での情報交換

小生は関西連合の有志と毎月1回ZOOM飲み会にて情報交換を実施。最近テーマとして、イベルメクチンの話、ウイルスの話、アンチエイジング・血管ケア、飲酒と脳の萎縮などについて、20～30分間のミニ講演している。参加者の卒業学部が異なるので、専門用語の説明には時に



本年度の理窓会代議員総会に参加した関西支部代議員の集合写真（著者2列目左端）撮影：近藤 明理窓会副会長

難儀する。情報収集してパワーポイントで資料作成するので自己研鑽にもなる。小生はエッセ薬剤師なので「街の科学者」にはなれない。しかし、今回のコロナ禍での経験から、スマホ片手に「理窓会の科学者」を目指そうと思った。(笑)

④理窓会に新風を！

本年6月末理窓会全国支部総会・代議員総会がコロナ禍3年目で対面・オンライン開催された。小生、上京対面参加。増淵忠行理窓会会長の2期目の船出となった。アジャイル思考を標榜する増淵会長の右腕 上村薬学同

窓会長が理窓会副会長に就任。加えて薬学同窓生の常務委員、代議員数は急増した。薬学部役員は付度せず建設的な意見を述べて、理窓会に新風を捲き起こしましょう。東理大薬在籍14年、感謝の意を込め、小生は京都支部代議員として応援します。

母校東京理科大学薬学部のさらなる発展を期待しております。

最後に皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念いたします。

卒業生報告

近況報告



上林 敦 (38期)

同窓生の皆さま、はじめまして。上林 敦(かんばやし あつし)と申します。2001年卒業の38期です。理科大薬学部で同じ時間を共有した同期・同世代の皆さま、卒業から20年以上が経過しました。大変ご無沙汰しております。この度、ふなかわら・卒業生近況報告に寄稿する機会をいただきました。卒業後、今日までに私がしてきたことや最近の活動について紹介いたします。

2001年に理科大薬学部を卒業後、薬剤学研究室・林正弘教授の異動に伴って大学院修士課程は他大学に進みました。2003年4月から今日まで、アステラス製薬株式会社・製剤研究所に勤務しております。2011年に会社から機会をいただき、ドイツのフランクフルト大学(Goethe University Frankfurt)に留学しました。フランクフルト大学では大学院博士課程にも入学し、3年ちょっとでPh.D.の学位も取得しました。理科大時代にドイツ語の授業に落第しており、私のドイツ語スキルは言うまでもなく底辺レベルです。そのような状況で入学してしまいましたが、大学では拙い英語で何とか凌ぐことができました。しかし日々の生活では、肉屋での口頭注文などでドイツ語が求められる場面もありました。生活をする上で肉を買わない訳には行きませんので、豚バラ肉の注文に関するドイツ語だけはかなり流暢に話せるようになりました。ドイツには理科大薬学部同級生の妻、当時幼稚園児であった2人の息子も一緒に行きました。研究だけでなく、ヨーロッパ旅行も大いに楽しみました。特にサッカー好きの私には最高の環境でした。

帰国後は、「数理モデルによる製剤の吸収予測研究を極め、医薬品開発に大きく貢献する」という目標を定めました。(薬学部卒の皆さまには釈迦に説法かも知れませんが)錠剤を口から飲んでから薬効が発揮されるまで、非常に多くのプロセスがあります。胃腸内で錠剤がどのように崩れて溶けるのか？製剤処方はどうのように影響するか？消化管の生理学はどのように吸収に関与する？吸収後の体内動態は？など、考えるべきことは無数にあります。これら1つ1つの現象は実はそんなに複雑な話ではありませんが、学問領域として物理化学、製剤学、生

理学、薬物動態学と多岐に渡っていて全てをカバーすることが大きな課題でした。また、それら全てを束ねて考えるには数理モデリングが必要で、独学で勉強し予測モデルを作ってきました。まだまだ私の予測モデルは発展途上ではありますが、最近の自社の錠剤やカプセルなどの固形製剤の製品開発には、私の数理モデリング研究が貢献しているものも結構あります。

最近では社内の研究活動だけでは飽き足らず、学会活動、業界活動、客員教員活動も精力的に行っております。COVID-19により対面での会合は激減しましたが、ウェブ会議が大きく発展しました。そのお陰で、この2年で多くの外部活動(特に国際的なもの)に効率的に関われるようになったのを実感しています。このように社外にもオープンに活動しています。同じ分野の同窓生の方がいらっしゃいましたら、お気軽に声を掛けて下さい。意見交換できるのを楽しみにしています。

4年前の7月に、薬学部同窓会・総会にフラッと立ち寄りしました。特に目的やきっかけがあった訳ではなく、暇つぶしのような感覚でした。同窓会には、様々な分野で活躍している先輩や後輩が出席していて、多くの刺激を受けました。それからは時間があるときには、総会・定例会に出席するようにしています。先輩・後輩とのコミュニケーションを毎回楽しんでます。同世代の皆さまも、ご興味があればぜひ参加してみてください。

この同窓会での繋がりがきっかけで、今年7月に野田キャンパスで薬学部3年生にキャリアについて講義する機会をいただきました。講義後には、学生さんたちと議論する時間もたくさん取って頂きました。高い志を持った優秀な学生がたくさんいる印象を受けました。後輩たちが将来、社会で大活躍してくれることを期待させられるものでした。

以上、取り留めのない内容でしたが、私の近況報告といたします。最後まで読んで頂きありがとうございます。COVID-19で落ち着かない世の中ではございますが、同窓生の皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。(上林 敦: atsushi.kambayashi@astellas.com)

(株)文芸社発行の著書「燃焼」の作品内容



岡部 捷二（4期）

本書の内容は、1965（昭41）年2月4日からの東京理科大学の学園紛争における薬学部4期生3学年の行動記録であり、同学年が残した大学ノート2冊分の3学年の討議事録等を参考に著者の体験を織り込んで書き表したものです。

著者は卒業後、日本私立大学協会に就職、同協会広報機関紙「教育学術新聞」の編集記者となり、私学の国庫助成運動に関わった。1970（昭45）年4月、大学紛争の激化と世論の教育改革への関心の高まりを受け、日本政府は私学に対する人件費を含む経常経費の国庫助成の法的措置を講じた。そこで著者は、大学改革に大切な大学の自治と学生参加の在り方への論議の資料として、大学関係者向けに同記録を残した。今回の出版の動機は、コロナ禍でただ閉塞感の募る日常。ふと甦った大学紛争の時代と過去の戦争の歴史。まさかと思うが、時計の針がふと戦争の時代へ逆戻りするかの強い危機感と恐怖を覚えた。そんな時、同記録を読んだ出版関係の若い世代の声に背中を押された。そこで、50数年前に封印した大学紛争時代のタイムカプセルの扉を、一般者向けに開くことにした。

東京理科大学の学費値上げ反対紛争は、一般的にはあまり知られていない。しかし、慶応義塾大学、早稲田大学と同様、その後の全国的に広がった先駆けになる大学紛争であり、また私学の国庫助成運動に少なからず影響を与えたともいわれている。1960年代前半の学生運動は、60年安保闘争の後衰退、あまり活発でなかった。しかし、水面下では、日本共産党傘下の日本民主青年同盟（民青同）が、従来の激しい政治闘争から、学生の身近な問題に取り組み要求する穏健な路線に変更。そのことが日共系全学連の再建拡大となり、60年代中頃には全国大学自治会の70%ほどがその傘下に加盟していた。この頃の日本社会は、戦後の混乱期を経て復興期から成長期に向けての時代であった。日本社会が高度成長に向かう中で、一般家庭の生活は、物不足から物が豊かな時代にはいり、物価の値上がりに苦しみながら年々所得も増え、暮らしが少しずつ向上した。そこで、子供の将来への教育投資として大学への進学率も徐々に上昇し、私立大学の新設や学部学科の増設が続いた。その結果、日本の大学の八割を私立大学が占めるようになっていた。その一方で、全国的に私立大学の学費は、毎年のように授業料等の値上げを続けたため、国公立大学との学費の格差が拡大を続けていた。また私立大学に入学してみると、大学内部は定員以上の学生であふれ、しかも受講に際し、一人の教授に対し受講する学生数は非常に多く、学生一人当たりの施設・設備は非常に貧弱であった。さらに、毎年学

費が値上がりしても、学習条件の改善が見られなかった。私立大学の増設や学部増設は、大学の資産を増すが、経常経費も増える。普段から資金不足に苦しむ私立大学は、無理な学部新設や増設を学生からの学費に依存せざるをえず、ついには年々学費の値上がりと、逆に学習環境の悪化となった。一方、私学経営者団体はこの危機的状況を改善するため、国と自民党政権に対し、私立大学への国庫補助の運動を展開していた。このような状況の中、1965（昭40）年1月、慶応義塾大学、すると翌年、1966（昭41）年に早稲田大学、東京理科大学と学費値上げ反対紛争が続いた。そして、学費値上げ紛争が口火となり、日大闘争、東大闘争等学生運動が続き、学生の様々の教育改革への要求となって全国に拡大した。

東京理科大学は、1960（昭35）年薬学部、1962（昭37）年工学部を増設。さらなる学園の発展に向け、拡大均衡策を続けていた。しかし、神楽坂校舎が手狭になったことで大学と学生自治会との間で学館、食堂、部室など厚生施設の問題で対立していた。1965（昭40）年9月14日、同大学の評議員会は野田市に新しく学部増設し、Ⅱ部1万円、薬学部2万円の授業料値上げをあわせ決定した。この決定により、同学生自治会と大学側との間の対立が激しさを増し、ついに交渉は決裂。後期期末試験の直前に、同自治会は全学無期限ストを大学側に通告。バリケードで全学を封鎖しストに突入、学園は機能麻痺状態になった。同大学にとっては、戦後の混乱期以来の最大の危機を迎えることになった。薬学部もバリケードで封鎖された。そして定員水増しによる学習環境の不満から、1、2学年生は他学部の支援を受けピケを張った。4学年生は卒業を目の前に、ストが薬学部学生の将来の就職に影響すると心配し、また卒業した同学部1期生、2期生が築いた薬剤師国家試験の実績を3期生も受け継ぎ、創設したばかりの同学部の伝統を築きたいとして、国家試験のための補講の保障に理解を求めた。同学部教授会も紛争解決に向け動いた。3学年生はストの現実に直面し団結。傍観せず自ら打開策をたて、話し合いにより本問題を解決するとの方針を決め、ストに参加、学園正常化に向け奔走した。

なお、本書は、紀伊国屋書店店頭又は全国書店で取り扱っており、アマゾン等のネット通販、電子書籍でも求められます。



葛飾キャンパス特集

葛飾キャンパス 新棟(イメージ)

現在の薬学部は、2003年度に神楽坂キャンパスから野田キャンパスに移転し、まもなく20年がたちます。

2025年度からは葛飾キャンパスに移転します。新棟は、地上11階、地下2階となる予定です。



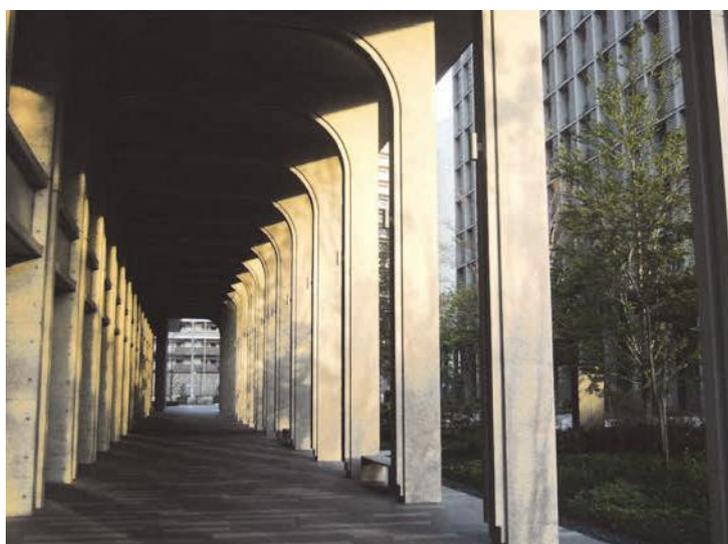
葛飾キャンパス入口



葛飾キャンパス第二期新棟建設工事に係る起工式(2021年6月28日)
鍬入れの儀を行う浜本理事長



メインストリートはキャンパスを縦断しており「キャンパスモール」と名づけられています。全長250mで図書館棟へと続きます。



講義棟1階アーチ

<葛飾キャンパスについて>

葛飾キャンパスは2013年4月、東京都葛飾区に開設されたキャンパスです。現在、工学部、先進工学部（元基礎工学部）、理学部第一部（応用物理学科）が所属しており、約4,000人の学生が葛飾キャンパスで学んでいます。金町駅（JR常磐線・東京メトロ千代田線）京成金町駅（京成金町線）から徒歩8分。



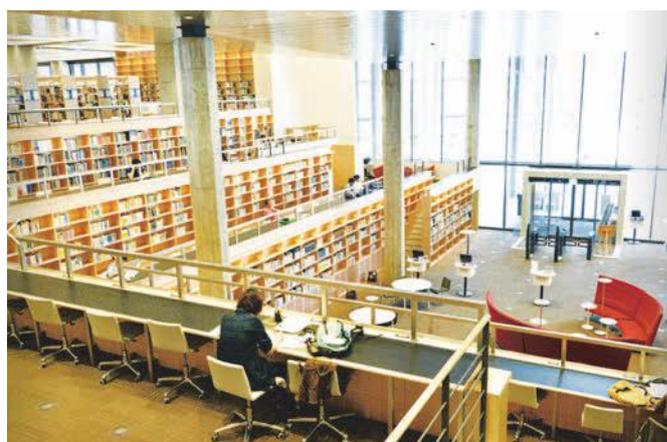
図書館棟入口



葛飾キャンパスのシンボルである図書館棟
図書館棟内には収容人数600名のホールもあります。



運動場
葛飾区の多目的運動場です。



ゆとりある自習スペースを設けた図書館



JR金町駅から葛飾キャンパスまでの商店街は金町理科大商店会と呼ばれています。



JR金町駅
葛飾キャンパスのある金町は、映画「男はつらいよ」の舞台としても有名な柴又の北に位置し、江戸川を挟んで千葉県松戸市を隣接しています。

研究室紹介

医薬品等品質・GMP講座



櫻井 信豪 (20期)

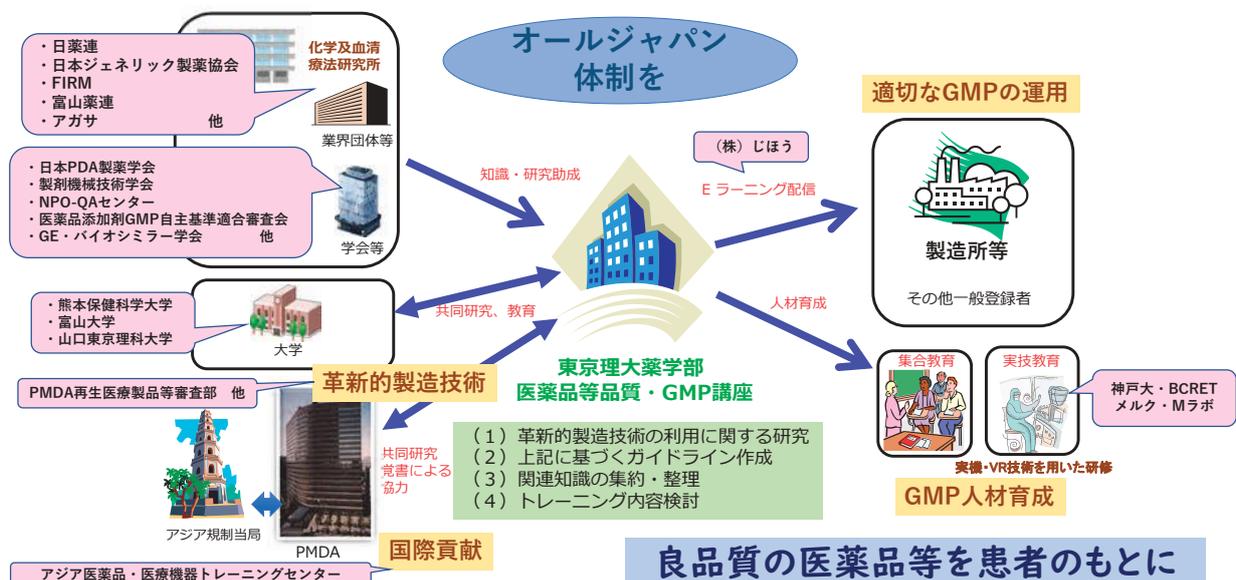
20期の櫻井信豪です。群馬県出身で県立高崎高校を卒業後、1979年に本学薬学部製薬学科に入学し、1983年に卒業し、そのまま大学院（薬学研究科）に進み、1985年に修了しました。研究室は故近藤保先生のもとで物理化学を専攻しましたが、当時は牧野公子先生が助手でおられ、ご指導受けました。大学院を修了後、東レ株式会社に入社しましたが、同期で唯一の薬剤師であったことから、インターフェロンの製造部に配属となり、GMPに関与するようになりました。当時、生物学的製剤であったインターフェロンの製造管理者の資格を得るには、細菌学に関する相応の知識が必要であったことから、1993年～1995年の2年間、国立予防衛生研究所（現在の国立感染症研究所（感染研））に派遣され、その時の研究で学位（保健学博士（東京大学））を取得することができました。結局、19年間に渡る企業時代には、生物学的製剤等製造管理者や品質管理責任者といったGMP上の責任者を担当したほか、基礎研究、技術改善業務も経験することができました。

その後、感染研の先生のお誘いもあり、2004年に出来たばかりの独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）に入構しました。PMDAではGMP査察を担当しましたが、当初はほぼ査察メンバーが揃っておらず、入構して丸3年間は隔週、多いときは2週間連続で実地調査に出掛けていました。調査先は国内のみならず、米

国、欧州、中国などの海外製造所の管理状況も確認しました。管理職になってからは、PIC/S（国際的なGMP査察の共同の枠組み）への加盟や厚生労働科学研究（GMP、QMS及びGCTPのガイドラインの国際整合化に関する研究）の研究代表者を担当し、省令改正案や関連通知案作成に関与してきました。結局、PMDA時代は査察業務以外、医薬品、医療機器さらには再生医療等製品の製造管理、品質管理の我が国の基準を国際レベルまで引き上げ、我が国のPIC/S加盟を成し遂げたことはとても大きな経験となりました。

2020年3月に執行役員でPMDAを定年退職し、7月に本学に開設したばかりの社会連携講座「医薬品等品質・GMP講座」の教授として着任しました。この社会連携講座の責任者はレギュラトリーサイエンス研修講座を主管し、医療薬学教育研究支援センター長の鹿野真弓教授と連携先である一般財団法人化学及血清療法研究所（化血研）・木下統晴理事長です。鹿野教授はPMDAで審議役を務め、2018年4月から本学の教授に就任していますが、薬学における医薬品の品質やGMPに関する教育が極めて少ない点に問題意識を持っておられました。一方、化血研は、基礎的分野も含めバイオロジクス研究への助成、有為な人材への奨学金の給付、顕彰など公益的事業を進める財団であり、アカデミアでのGMP教育の必要性を強く認識していました。こうした問題意識から連携が実を

東京理科大学「医薬品等品質・GMP講座」が目指す産官学連携



良品質の医薬品等を患者のもとに

Fig. 1

結び、2020年7月に講座が設置され、現在、私がおその責を担っていますが、その後、化血研以外にも日本ジェネリック製薬協会、富山県薬業連合会や企業数社から研究助成を頂き、講座を運営しています。

このアカデミアで最初の医薬品の品質及びGMPの講座の目標とするところは、医薬品等の品質・GMPに関する教育及び研究活動を通じて産・官の連携強化のサポートを行ない、以下の3つを柱として、社会に貢献することです。

- 高品質の医薬品等の流通
- 効率的な革新的生産技術等の適用
- 適切かつ効率的な品質関連規制の運用

講座の目指すものとしては、最終的にはGMP分野でのオールジャパン体制 (Fig. 1) を構築し、より多くの協力者を得て国内の製造者、行政関係者のGMPの浸透や底上げをすることです。

さて多くの方がご存じのとおり、一昨年来、ジェネリック医薬品企業のGMP違反や不正問題が起り、それらが発端で医薬品の供給不安にまで広がっています。さらに新型コロナワクチンの国内開発、製造の遅れの反省から、今後の新興・再興感染症発生時に対処するため、ワクチン等の国内製造への動きが国家プロジェクトとしていくつかで進められています。GMP人材育成はまさにこれらの課題解決に直結するものです。さらに2004年の薬事法改正で医薬品製造の全面委託が可能となった結果、一つの企業の中の製造販売業と製造業を切り離す分社化が進んだことから、製造販売業者にGMP人材不足の傾向が顕著となりつつあります。日本の医薬品産業を支える製薬企業でのGMP人材育成が今まさに望まれている状況と言えます。

このタイミングで設置された当研究室では、学生のみならず、社会人のためのE-ラーニングやハイフレックス方式のGMP教育訓練コースの設置を進めています。既にE-ラーニングは昨年10月に導入・基礎編を配信開始し、

本年4月には実践編も配信済みで、さらに10月には専門分野別編を配信予定です。また、現在、ハイフレックス方式の教育訓練コースを考案中で、10月にはGMP対応エンジニアリング講座、来年4月にはGMP対応マネジメント講座の開講を目指しています。このコースは製造所のGMPの要となる医薬品製造管理者や品質保証部門(QA)、製造販売業者のGQP部門に従事の方が、1～2年程度でGMPの精通者となるようにプログラムを組みます。このプログラムは、EUの合理的な仕組みであるQualified Person (QP) 制度で活用されている、いくつかのQP育成コースを参考に、日本の規制要件や特有事項を踏まえて検討しています。これは、PIC/SのAuthorized Person (AP) 制度 (EUのQP制度と同じ) と方向性を同じくするサポート的なものと考えています。日本の医薬品製造管理者には薬剤師資格が必要ですが、薬学教育にGMPが欧米のようにしっかり組み込まれていないなか、現在設定中のGMP教育訓練コースは本学の特徴的な教育になるものと考えており、既に多くの後援、協賛を得るに至っています (Fig. 2)。

上記教育訓練コースの設定のほか、当研究室では公的研究費にて、医薬品、再生医療等製品、医療機器の製造管理、品質管理のガイドラインの国際整合化に関する研究を実施している他、再生医療等製品 (細胞加工製品) の品質管理手法に関する研究や新しいモダリティー (mRNAワクチンなど) の人材育成の教材作成に関する研究も行っています。

科学や技術の進歩が著しいなかで、新しいモダリティーを含む医薬品や再生医療等製品の品質確保をどう進めるか、グローバルな基準やガイドラインの研究を通じ、規制の調和 (レギュラトリーサイエンス) を図ること、そして、そこから得られた最新の知識を人材育成に繋げることが研究室の課題としています。それが最終的に患者さんの安心・安全に帰結すればこの上ない喜びです。

「GMP教育訓練コース」



	2022.8.18 現在
後援:	PMDA レギュラトリーサイエンス学会 経済産業省 (予定)
協賛:	製剤機械技術学会 日本PDA製薬学会 日本製薬団体連合会 日本医薬品原薬工業会 日本再生医療学会 日本遺伝子細胞治療学会 細胞製造コトづくり拠点 ISPE日本本部 日本ジェネリック医薬品・バイオシミラー学会 医薬品・食品品質保証支援センター

Fig. 2

恩師からのたより

遠藤 次郎 (2009(平成21)年3月 退職)



野田の仙人

理科大野田校舎のそばを運河が流れており、そこに遊歩道がある。近隣に住んでいることもあり、その遊歩道をよくウォーキングをする。近隣に高校があるらしく、自転車通学する高校生ともよくすれ違う。ある時、四、五人の高校生とすれ違ったとき、その一人が大声で「間違いない、仙人だ!」と。どうも私のことを言っているらしい。以来、いろんな高校生が「今日も仙人に会ったぞ、ラッキー」とか、「仙人ってのは渋い顔してるネ」等々と話し声が聞かれるようになった。どうもその高校では私の仙人話は定着して、一人歩きしているらしい。仙人で思い出すのが、私が市ヶ谷校舎で、まだ助手をやっていた頃、植物化学の教授の村上孝夫先生に「お前は五百人だな」と言われた。キョトンとして何を言われたのかまったくわからなかったが、後になって「あゝ、仙人の半分」の意味か、と。あれから何十年、俺もとうとう仙人になったか……いや、まだ七百人か…八百人か…などと自問自答したりしている。

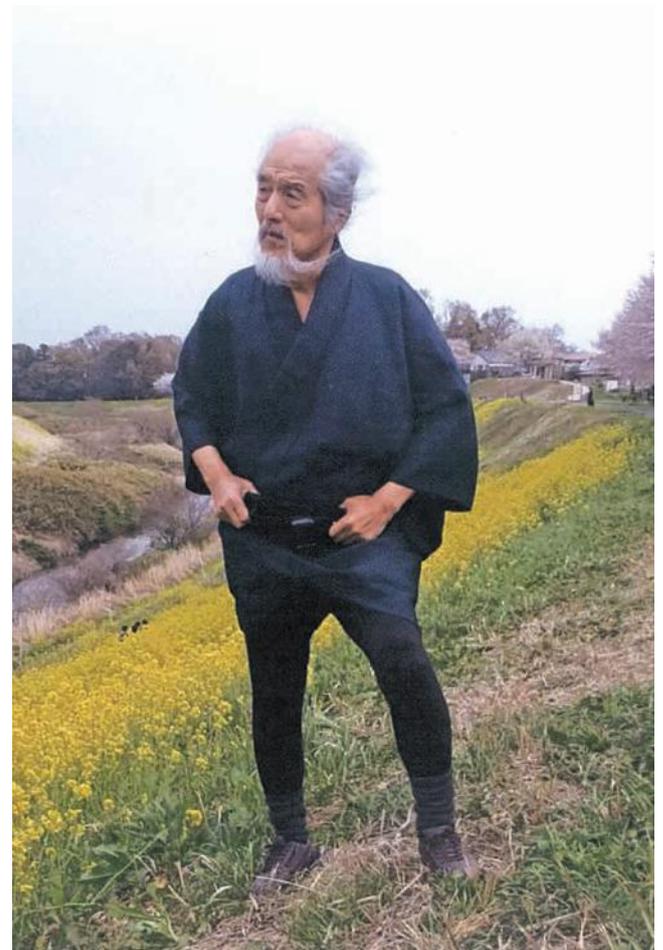
仙人のウォーキング

長年漢方をやってきたこともあって、私は自分の健康の為にだけでは歩かないことにしている。何のため? そう言われれば、コロナ禍になってから真剣に歩くようになったところを見ると、コロナ対策の一環の行だったような気がする。ヒゲや髪の毛を刈らなくなったのもコロナ撲滅祈願の一環だった。何で、歩くという行為がコロナ対策、ロシアのウクライナ侵攻対策、天変地異対策に繋がるの? 何で、そんなことができるの? 答えは簡単。「天人相感」「天地人相感」である。我々人間は天と地が交流し合ってできた自然の中から発生した。だから親子の関係たる天地と人間とは「相い感じ合う」。天地は人間を育てる一方、人間は時として天地に対して甘えたり、お願いしたり、反抗したりする。ある宗教者が言った。「そんなことだったら私だって毎日のように、祭壇に向かって手を合わせ神にお祈りしています。同じことじゃありませんか…」「ムムム…ちょっと違うかな。私が対話しようとしているのは天地です。天(神)と対話できる人は多いが、地と対話できる人は意外と少ないものです」。

治身治国

漢方ではよく「治身治国」という言葉が使われる。「よく身体を治(おさ)める者は、よく国を治める」の意味

である。身体は小宇宙、外界の世界(国も含む)は大宇宙。小宇宙と大宇宙の関係は「影響(形と影、音と反響)」し合う関係なので、治身をすることにより治国の行を行なうことができる。そんな馬鹿なと思うかもしれないが、コロナの時期に入って、実際にコロナにかかったわけではないがコロナの「影響」を受けた患者が急増した。それらの人々を治療していた折、患者の身体内で「大宇宙の神」と称する方々にでくわし驚かされた。彼らは少宇宙の極めて複雑な反応機構を学ぶために身体にやっけてきているらしい。小宇宙の世界は微細かつ複雑で、グローバルな大宇宙に住む神々にとって研究材料なのであろう。この事実をうまく使うならば、人間の心身の持つ微妙な作用機序を参考にしてコロナ対策をして欲しいとお願いする一方、大宇宙の天地の規範に従って人間の病を治してほしいとお願いすることもできるはずである。天の神々が人間の身体に降り立ちたがる理由はもう一つある。それは、天の存在は地の存在に比して実体性が希薄であるという点にある。天は非常に高度なロゴス(論理)



を持っているものの、このロゴスを地上に降してみたとき、どこまで実体化できるのか、やってみなければわからない。何とか具現化させたいという一面があるのであろう。

陰陽形気治療

研究室の卒業生の仲間達等と一緒に「漢方相談」と称して、一般向けに漢方相談や漢方治療を継続的に行ってきた。「漢方治療」といっても、鍼灸をするわけでもなく、湯液を使うわけでもない。いわゆる「気の治療」である。もう少し正確に言うと以下のようなものである。人は陰陽交流により生命体としての「形気」を体得する。「形」（身体を構成する形）と「気」（形を動かす気）とは常に陰と陽の如く対立関係を持ちながら交流し合い、具体的な心身を形成していく。これが「陰陽形気論に基づいた治療法」の基本的な理念である。日本人は「気」が大好きで、日本語の中には中国よりもはるかに多くの「気」が付いた言葉がある。驚くべきことに日本人が使っている「病気」という言葉は中国にはないし、古典の中にもほとんど見ることはできない。気を重視する日本人気質は悪いとはいわないが、気だけの治療ではその時に治っても数日するとまたもとに戻ってしまう。「気」の運動を「形」に固定させてはじめて「形気」治療が成り立つと言える。私は在職中以来、この治療を続けて四十年近くになるが、コロナ禍発生以来、対面治療を控えなければならなくなった。これを機会に「遠隔治療」に切り換えた。「エッ、何それって、直接みなくても治せるの?」「別に、そんなに驚くことはない。名医扁鵲が言っている。病が体表にあらわれるなら、千里離れていても治すことができる」と。治身治国の機序をマスターしていれば遠隔治療も特段難しいことではない。

機序をかける

具体的なウォーキングの行のやり方を示そう。「人」の立場で「天地」と無言の意見交換を行う。三者の意見の合致が得られたならば、この合致した意見に対して、ちょうど「実効ボタン」を押すようなつもりで「機序」を打ち込む。「機序」って何?と一般の人からよく質問される。薬学を出た人は「作用機序」等の言葉でなじみ深い。ところが、不思議なことにこの言葉は漢方の古典にないばかりか一般的な漢和辞典の中にも見出せない。調べてみると、どうも「メカニズム」等の訳語として作られた言葉らしい。漢方の古典では単に「機」とか「序」とか称している。「機」は「はた織り機」の意味を持つ。鍼灸理論でととえるならば、はた織りの原材料としての糸は「天の規範（春夏秋冬の運気をつかさどる規範）」と銘打った「糸」がすでに身体内に導入されている（縦軸としての経脈、横軸としての絡脈）。「人」はみずからの身体の「はた織り機」で、天から与えられた「縦糸、横糸」を使って自分に見合ったものに織りあげる。縦糸に対して横糸を通すとき杼〔ひ（予）の末端に糸を結ん

で横にとばす器具〕を使う。「機序を掛ける」とは以上の意味を持っている。

夢判断

「漢方相談」の治療者の技術は誰が教えてくれるわけではなく、各自の修練によるが、共通の修練の場として「各自がその日にみた夢と、その夢に対する夢判断」を報告し合うことが半ば義務付けられている。やってみるとわかることだが、この作業は非常に苦しい。はたから見るとほとんど馬鹿げた作業である。何のために? 夢が扱っている無意識の世界は意識が形成される前段階の根源的な生命の陰陽形気の状態である。これを把握することができるならば、意識の総括を経ない身体（病の）直接の叫びや主張に耳を傾けることができる。さらに、深くは民族や人類の根源的に持っている陰陽形気にも耳を傾けることができる。ただし、この無意識の世界はまともなロゴスを持ち合わせていない。そのため断片的なロゴスを組み合わせてみたり、その裏を読んだりしながら「夢判断」をする必要がある。この訓練を経ることにより、臨床の場に立たされた時、患者の身体深部の心身の言葉にならない言葉の主張をとらえることができるのである。どうです、皆様も頑張ってみては。なお私は仙人を目指すのはやめにしています。九百人を目指します。なぜって、「九」は究極の数字。「九」の次は「0」。「0」は、登仙してあの世に言ってしまう数字だから。最後に皆様に送ることば「行健不息」、休まないで歩け!



生涯学習プログラム 2022年度後期講座のご案内

オンライン (Zoom) 配信により開催

講座実施後、アーカイブ配信の予定あり (一部講座を除く)

東京理科大学薬学部 医療薬学教育研究支援センター (SCCPEP) は、本学薬学部と各医療機関、製薬企業および医療行政などを繋ぎ、充実した臨床薬学教育および臨床研究を支援するために設けられた薬学部の附属機関です。薬剤師をはじめ薬学関連の社会人のスキルアップと研究活動を支援し、これら薬学の産官学連携を通じて、学部での実践的薬学教育の充実に繋がります。

また、本学の社会人大学院を活用して医療および製薬の現場で働きながら研究し、学位取得を目指す方の活動を支援します。どうぞご相談ください。

薬学ベーシックコース

日々進歩する薬物治療に関する知識のアップデートだけでなく、エキスパート養成、臨床研究の実施に役立つ講座を通じて薬剤師のスキルアップを目指します。

薬物治療アプドゥデート講座	日程及び受講料
「核酸医薬の基礎 (仮)」 和田猛 (東京理科大・薬)	10/6(木) 3,000 円
「核酸医薬 (仮)」和田猛 (東京理科大・薬) 「既成概念を覆す革新的な DDS の開発—経鼻・経肺に着目して—」山下親正 (東京理科大・薬)	11/19(土) 3,000 円
「放射線の基礎と放射性医薬品」 月本光俊 (東京理科大・薬) 「漢方薬を構成する生薬の役割」 羽田紀康 (東京理科大・薬)	12/17(土) 3,000 円
「消化管に作用する漢方薬の基礎と臨床 (仮)」 —スポンサー講座(ツムラ株式会社)— 座長・進行: 磯濱洋一郎 (東京理科大・薬・教授) 講師: 喜多敏明 (辻仲病院漢方未病治療センター長) 講師: 堀江俊治 (城西国際大学薬学部 教授)	12/10(土) 開催予定 ※本講座は 受講料無料
「双極性障害の薬物療法と療養のポイント」 「精神科領域での適応外使用の話」 功刀浩 (帝京大学医学部 教授)	2023 年 1/7(土) 5,000 円

基礎薬学スキルアップ講座	受講料: 各回 3,000 円	日程
「文献検索の仕方」 嶋田修治 (東京理科大・薬)		10/1(土)
「学会発表の仕方・論文の書き方」 嶋田修治 (東京理科大・薬)		10/22(土)

レギュラトリーサイエンスコース

薬学関連のレギュラトリーサイエンス (開発・評価・PV など) の知識や考え方を体系的に修得することを目指します。

医薬品開発等講座	受講料: 各回 4,000 円	日程
<生命科学・医学系研究指針改正と次世代医療基盤法の見直し> 「人を対象とした生命科学・医学系指針の改正について」 高江 慎一 (厚生労働省厚生科学課研究企画官) 「次世代医療基盤法の 5 年後見直しについて」 姫野 泰啓 (内閣府健康・医療戦略推進事務局参事官)		9/15(木)
<国産ワクチン開発強化に向けた動向 (仮)>		日程調整中 (11 月または 12 月)
<再生医療安全法改正と臨床研究法の見直しについて (仮)>		日程調整中 (12 月)

医薬品品質・GMP 講座	受講料: 各回 4,000 円	日程
「GCTP 省令改正の検討状況と再生医療等製品の品質審査の課題」 講師: 櫻井信豪 (東京理科大・薬) 講師: 寶田哲仁 (東京理科大・薬) 講師: 本田二葉 (PMDA 再生医療製品等審査部)		10/7(金)
「ジェネリック医薬品の供給問題、承認書記載の課題と GMP の視点」 講師: 蛭田修 (熊本保健科学大学 特命教授) 講師: 清原宏真 (PMDA 審査マネジメント部) 講師: 高木和則 (PMDA 医薬品品質管理部)		12/2(金)

PMDA: 独立行政法人医薬品医療機器総合機構

【申込方法】医療薬学教育研究支援センターHPの申込フォームよりお申込み下さい。自動返信メールで受講料のお支払方法などをご案内します。各講座の開催準備が整い次第、順次受付開始いたします。

【会場及び開催方法】通常は東京理科大学神楽坂キャンパスを利用して集合研修をおこなっていますが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止措置のため、オンラインで開催いたします。

【ご注意ください】オンライン (Zoom) 配信により開催しますが、状況によっては配信方法の変更、講座の中止・延期の場合があります。お申込みの際は HP で最新情報をご確認ください。どうぞよろしくお願いいたします。

各セミナーの詳細情報・お申込みはこちら
東京理科大学薬学部 医療薬学教育研究支援センター
<https://www.tus.ac.jp/sccper/>



薬学部同窓会は同窓生の真心と会費で運営されています

薬学部同窓生の皆様、日頃より同窓会活動にご協力戴きありがとうございます。

また、引き続き会費納入をいただき本当にありがとうございました。同窓会幹事一同心からお礼申し上げます。今年度も2022年度会費納入をお願いいたします。

そして、本年度から新たな同窓生となりました2022年3月卒業生59期、大学院修了の皆様、ならびにご父兄

の皆様からも本同窓会活動に賛同を得ることができましたことを本当にうれしく思っております。東京理科大学薬学部同窓会は、薬学部同窓生の強い絆のもと独自の同窓会として同窓生の真心と会費により運営されております。

なお、ご寄付も受け付けておりますので、どうぞよろしくようお願い申し上げます。

2022年度会費納入手続きについて

◆あなたの会費納入状況

ふなかわら送付時の封筒の宛名の下部に記載あり（ご確認ください）

終身会員・∞

終身にわたり会費を納入済みの正会員の方：入会後の段階でも納入可能です。一度の納入で終身会員となり、次年度からの納入は不要となります。納入年度にかかわらず、ふなかわらにお名前を記載させていただきます。

20××年3月まで済み

20××年3月まで会費納入済みの正会員の方：会費納入年度のふなかわらにてお名前を記載させていただきます。

2022年度・お願い

2022年度の会費未納の会員の方：会費納入をどうぞよろしくお願い致します。

◆会費納入方法

郵便局で同封の振替用紙をご利用いただくか、金融機関窓口、ATM、ネット等から下記の口座にお振り込みください。

ゆうちょ銀行 ○一九店 当座 0178943

リダイヤクガクブ ドウソウカイ

（口座振り込みの場合は、期または卒業年を氏名の前にご記入ください。家族会員やご寄付などが含まれる場合は、振込後にメールまたはFAXで金額種別をお知らせ下さい）

◆会費金額

年会費2,000円（何年度分でも納入できます）、終身会費50,000円

☆ただし、家族会員（正会員の一親等親族および配偶者）の年会費・終身会費は1/2

令和3年度 会費納入額詳細（令和4年3月31日現在）

	年会費納入		終身会費納入		寄 付 金		合計金額
	金 額	人 数	金 額	人 数	金 額	件 数	
令和3年度卒業・修了者	18,000	1	690,000	23	0	0	708,000
既卒者	240,000	44	965,000	22	15,000	2	1,220,000
合 計	258,000	45	1,655,000	45	15,000	2	1,928,000

薬学部同窓会会員数（令和4年3月31日現在）

	卒業生数	終身会員	年会費会員
卒 業 生	10,630名	2,327名	964名
大学院修了生	227名	19名	8名
合 計	10,857名	2,346名	972名

定例会に参加しませんか!

ZOOMでの参加も可能です。

神楽坂での参加が難しかった地方の同窓生、大歓迎!!
年に4回開催してます。詳しくはホームページをご覧ください。





野田キャンパス冬のライトアップ



野田キャンパス雪景色



野田キャンパス入口



ふれあい橋 (野田)
真野泰成 (副会長) 撮影

東京理科大学薬学部同窓会へのお問合せ

【事務所・連絡先】

東京理科大学薬学部 同窓会事務局

〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科大学薬学部内16号館1F

E-mail : jimui@ridaiyakudo.gr.jp FAX : 04-7121-4531

E-mail、FAX、または郵送での受付とさせていただきます。事務員は常駐しておりませんので、すぐには対応できない場合があります。ご了承ください。

【ホームページ】

<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>

行事などに関する最新の情報を掲載しておりますので、是非ご覧ください。また、ホームページのWEB名簿システムを利用して、パソコンから登録情報の変更をすることができます。是非ご利用ください。

編集後記

今回の「ふなかわら」(第34号)はいかがでしたでしょうか。表紙の写真は葛飾キャンパス建築風景の航空写真(2022年7月)です。2025年度薬学部の葛飾キャンパス移転に向けて、「ふなかわら」では引き続き、建築風景の様子をお伝えできればと思っています。葛飾キャンパスはあまり馴染みがないと思いますので、今回は、葛飾キャンパス特集を組みました。少しはイメージしていただけましたでしょうか。100年前に世界を襲った「スペイン風邪」は終息するのに3、4年程度かかっています。新型コロナウイルス感染症との付き合いももう3年目になります。そろそろ終息してほしいものです。そんな中、先日、久しぶりに小規模の学会に対面で参加しました。直接お会いして話をすることができ、人と人の対面での交流はあらためて良いと感じました。コロナ前のように、同窓生が集まって親睦や懇親を深め、交流できることを願うばかりです。(Y.M)

令和4(2022)年度同窓会幹事一覧

小原 侃(1)	石井 甲一(11)	日向 章太郎(15)	高梨 契典(19)	中村 宏(23)	大瀧 充(29)	澤井 美里(40)
黒崎 浩己(1)	小暮 涉(11)	和田 浩志(15)	永井 健一(19)	森田 深雪(23)	神谷 貞浩(29)	柴崎 光太郎(40)
山口 堅志郎(1)	岡宮 智子(11)	遠藤 健治(16)	長谷川 俊雄(19)	桐山 まゆみ(23)	内地 兼一(30)	高橋 智至(40)
川手 鮎雄(2)	富秋 英志(11)	関口 真紀子(16)	小松 俊哉(20)	秋山 裕一(24)	菊水 裕(30)	高橋 友里(43)
鈴木 政雄(3)	向井 康典(11)	田畑 新子(16)	飯野 直人(21)	五十嵐 澄枝(24)	水 道枝(24)	杉野 由香里(43)
中村 洋司(3)	飯島 幸江(12)	武田 直子(16)	吉田 美保子(22)	金森 修一(24)	高橋 瑞穂(31)	永井 弓子(43)
池田 幸雄(4)	金澤 幸江(12)	今 和枝(16)	牧田 信子(22)	佐藤 丈久(25)	中川 未明(31)	森脇 本恵(43)
幡野 千丕(4)	田中 貴代子(12)	大谷 佳行(16)	花岡 秀(22)	石井 一成(25)	佐々木 悦史(32)	松本 圭典(45)
山田 高照(5)	田端 敬一(12)	渡部 敏行(16)	安藤 総一郎(22)	伊集院 靖明(25)	渡邊 昌徳(34)	高尾 隆一(45)
藤田 康勝(5)	根元 恒男(12)	青山 隆夫(17)	磯部 政之(22)	原 蜜(26)	小島 昌香(34)	鈴木 敬一(46)
藤井 洋行(6)	小高 文由(14)	押尾 茂(17)	小川 裕史(22)	小林 靖之(26)	野村 香織(34)	永井 隆(50)
寺山 博隆(7)	石井 修(14)	大山 邦之(18)	柏田 弘(22)	関根 靖之(26)	真野 正克(35)	岡田 あす(52)
松岡 隆(8)	岩崎 典(14)	関 宏二(18)	樽野 健二(22)	若松 順子(27)	宮田 亮介(37)	宮田 悠一(52)
奥村 成(8)	畑中 典(14)	渡辺 宏二(18)	永井 幸和(22)	小川 伸二(27)	金井 将(37)	高橋 春海(53)
武尾 勝(9)	林 謙(14)	山内 紀子(19)	高井 忠津子(19)	稲村 久米(27)	浅井 千恵(38)	熊谷 野久(54)
中島 敏夫(10)	昌子 久仁子(14)	小川 知夫(19)	上村 直(23)	前田 真(27)	遠藤 智子(39)	庄野 大(54)
原 しげ子(10)	前田 初代(14)	小嶋 知夫(19)	佐藤 直(23)	秋本 和憲(28)	金枝 有香(40)	田代 須(54)
石井 啓子(10)	菅原 伸治(15)	鈴木 康正(19)				西須 裕人(54)